



広げよう「友好と奉仕」の輪

会長 西井 勝明

人類に奉仕するロータリー

本日は 第3022回 例会
プログラム
滝川国際交流協会の年間事業の現状と課題
No.2834 3月16日(木)

次週以降の予定
3月23日(木)滝川市子ども発達支援センターの活動について
3月30日(木)中空知定住自立圏
4月6日(木)火災予防行政の現況

第3021回 例会報告

2017年 3月9日(木)

副会長挨拶



①. 本日予定していましたが新入会員の
入会式は来週にさせていただきます。
現在滝川RCは会員数88名となりました。
予定ではあと2名の加入の見込みがあ
るようですので、是非とも会員数90名となる
ように努力を続けていきたい。
②. 先日お亡くなりになられました縄手会員の
追悼例会については、ご家族と相談させてい
ただいたところ、開催を希望されないとのこ
とでしたので、当会においての追悼例会は行
わないこととお知らせいたします。加えまして、
故縄手会員の奥様より、当会のニコニコBOXと
一般寄付にそれぞれ10万円のご寄付を頂戴い
たしましたことをこの場をお借りして皆様
にご報告させていただきます。

幹事報告



①. 赤平RC、芦別RCより会報が届いて
います。
②. 今年度(昨年10月・札幌)開催の地区
大会の記録誌が届いています。地区大
会参加登録された会員のロッカーに入れてお
きます。

委員会報告

親睦活動委員会 石黒 安雅 副委員長
木曜フォーラムの最終案内。

3月16日(木) 18:00より、会場は「おくの」に
て会費は4500円です。講師は松原章前ガバナー
補佐に務めていただきます。本日が申込みの
締め切りですのでご出席希望の方は是非とも
お知らせください。



【米山記念奨学会委員会担当例会】

ーゲスト卓話ー



米山記念奨学会委員会
河戸 三千之 委員長

まず始めに公益財団法人ロータリー
米山記念奨学会についてご説明申し上
げます。

1920年日本で始めて設立された東京ロータリー
クラブの初代会長米山梅吉氏の功績をきねんし

て、1952年米山奨学制度を設立。1957年には
国内全クラブの合同事業として「ロータリー米
山記念奨学委員会」が結成された。

1960年に「ロータリー米山記念奨学会」と名
称を変更し現在に至る。

2016年度の米山記念奨学生学友の実績数は
750名(昨年は730名)、中国・韓国・ベトナム・台
湾・モンゴル・マレーシア他の各国より受け入
れを行っている。これまでの支援してきた留
学生総数は、18,648人(2015年現在)。事業費
は12億円という国内における民間最大規模の
奨学事業です。

本日は地区米山委員長の石黒清司様(新札幌
RC)をゲストにお招きしての卓話を予定してい
ますが、その前にDVDをご覧ください。



○DVD: 2016ロータリー国際大会(ソウル)にお
いて開催された画期的な事業の紹介。

大会前日「学友合同懇親会」が初開催され200名
を超える米山学友が集った。また、大会会場
の中にも「YONEYAMA」を紹介するためのブ
ースが設けられ、各国メンバーへの活動を紹介し、
理解協力を求める様子が放映された。

更に、大会中、「YONEYAMA」による分科会も行
われ、国内事業から国際的な活動として飛躍
しつつある米山記念奨学会を改めて知ると
ころとなった。

※なお、この映像は
公式HP (<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>) 内
においても視聴が可能です。その他、米山学友
によるスピーチやこれまでの活動を含めた動
画を視聴できます。

それでは、これから大石委員長様に卓話をいただくのですが、その前に一つだけお願いを。今期当会では会員87名中35名からご寄付(50数万円)を既にいただいておりますが、今後も皆様からのご寄付を受け付けております。

「米山記念奨学会の国際大会報告」



地区米山委員会

大石 清司 委員長(新札幌RC)

米山記念奨学会委員会として年度内2回の卓話を行っているのは滝川RCの特徴でもあると感じている。国際的な奉仕団体であるロータリークラブにあって、その活動の中で世界の架け橋になるべく人材を育成するという大切な事業を担っているのが米山記念奨学会です。しかしながら、各クラブで実際に関わることが難しいのも現状であります。何故なら、奨学生を受け入れる地域に限りがあるからです。

今年度、地区では15名の奨学生を受け入れますが、多くの2510地区のクラブは直接関わることにはならないのです。

滝川市には國學院大學北海道短期大学部がありますから、是非とも大学との連携・協力の体制を確立して、奨学生を引き受ける機会を実現していただきたいと願っています。

また、一方で、学友の中でも米山の主旨への違和感を抱くケースも増えてきている。そのためにカウンセラー制度を設置しているのだが、何よりも、ロータリアンと学友とが相互に話を進め、お互いに関わることでその溝は埋められる、むしろ、関わることでしか埋められないものです。

相互に理解が深まり、お互いにとって貴重な経験を経ることで、学友はそれぞれの国へ戻った後も留学の「力」を発揮し、更に飛躍することにこそ「YONEYAMA」の目指すところはあるはずです。そのためにも、みなさんのご協力とご理解をさらに願うところでもあります。

神部副会長から質問とお願い

(Q) 米山の歴史の中で日本から国外へ留学された事例が2名ほどあると聞いたことがありますが、その点について教えていただきたい。

(A) 基本的には海外からの国内への留学が米山の対象となるので、管轄外ではありますし、残念ながら分からない。

(お願い) 地区協議会までに地区委員の選出が行われるのですが、当会からの選出を是非ともお願いしたい。



渡邊恭久パスト・ガバナーから

①地区米山委員長としての煩雑な公務をこなす大石委員長へねぎらいの言葉がかけられた。今年度地区33名の希望者からの選考に際し、本人の願書は勿論、論文や資料を基に選考を進められた。その労苦へ

の一言として。

②全国の寄付平均額は1万6千円余で滝川の1万円と比べた時に、特別高いと言える金額ではないのが現状。米山の主旨への理解が進んでいない現状を示す一つの数字と言える。

学友と直接関わる機会を実現しなければならない。例えば、札幌地区の学友を一時的に滝川RCがお世話をする事業を計画するのも選択肢の一つである。会員一人一人が意識を高めていく活動を模索していかなければならない。

最後に滝川RCから謝礼・奨励金が渡されてプログラムは終了。



ニコニコBOX

故 縄手康照会員(縄手家)

大変お世話になりました。

大石 清司地区米山記念奨学会委員長

お世話になっております。(新札幌RC)

神部 洋史会員

米山記念奨学会委員長をお願いして。

佐藤 佳朗会員

妻の母の葬儀、ロータリーの友情に感謝です。

渡邊 恭久会員

大石地区米山委員長を例会にお迎えして。

入井 浩樹会員

米山記念奨学会セミナー、函館で勉強させていただきました。感謝です。

関藤 龍也会員

結婚記念をいただいて。

会長／西井 勝明
幹事／坂本 和繁
編集／クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM0:30
例会場●ホテルスエヒロ
事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16
TEL(0125)22-3344
FAX(0125)24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。